

水草等対策技術開発支援事業実績

採択年度	平成29年度	事業者名	株式会社 日吉
補助事業名	短期間堆肥化法の開発および繁茂抑制に関する技術開発		
補助事業結果概要	<p>沈水植物等の水草および侵略的外来水生植物において、裁断後、酵素（セルラーゼ）処理を行い、迅速堆肥化の検討し、所期の目的を達成した。</p> <p>侵略的外来水生植物のオオバナミズキンバイについて、バスタ液剤の殺草効果の確認が出来た。また、琵琶湖水系メダカ稚魚、琵琶湖由来ミジンコ並びに琵琶湖固有魚ホンモロコ成魚に対する急性毒性を調べ、その十分な安全性が確認できた。現在、除草剤の水系流出程度確認試験において、より流出を抑えることが出来る投与方法の開発を検討中である。</p>		
本年度（平成30年度）の状況 ・技術開発等の状況を含む	<p>平成30年度水草等技術開発支援事業の採択を受け、沈水植物等の水草において、従来技術の効率化、低コスト化に関する技術開発事業を行った。平成30年度は、水草を発酵させず、水草を肥料化の際、発酵過程を経ず肥料として扱いやすいように粉体化する法を開発することとした。</p> <p>また、侵略的外来水生植物については除草剤（バスタ液剤）を用いたオオバナミズキンバイに対する枯殺法の効率化の検討および除草剤成分の無毒化にかかる研究開発事業において、除草剤をオオバナミズキンバイの茎に直接注入する方法で草体に及ぼす影響を調べたところ、殺草効果は高く、枯殺に必要な除草剤の量も確認できた。</p> <p>また、水中への除草剤の流出についても、茎表面への塗布方法と比べて大きく減少することも判明した。さらに、除草剤を分解する土壌菌を同定することができた。</p>		
備考			